

ケッペル(KPLM)

携帯会社の M1 の買収へ、デジタルプラットフォームやコネクティブ・テクノロジーなどでのシナジーに期待

シンガポール | 石油・ガスサービス | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG KEP:SP | REUTERS KPLM.SI

- 2018/12 期 1H (1-6 月) は、売上高が前年同期比 6.8%増の 29.92 億 SGD、営業利益が同 2.2 倍の 7.25 億 SGD、純利益が同 38.0%増の 5.83 億 SGD となった。
- オフショア・海洋事業は依然として厳しい状況が続くものの、好調な不動産事業とインフラストラクチャー事業が全体の業績を牽引。
- 9/27 に携帯通信会社 M1 の買収を目指すとは表明。デジタルプラットフォームやコネクティブ・テクノロジーなどでのシナジーに期待。

What is the news?

2018/12 期 1H (1-6 月) は、売上高が前年同期比 6.8%増の 29.92 億 SGD、営業利益が同 2.2 倍の 7.25 億 SGD、純利益が同 38.0%増の 5.83 億 SGD となった。オフショア・海洋事業は依然として厳しい状況が続くものの、好調な不動産事業とインフラストラクチャー事業が業績を牽引。

事業セグメント別の業績は以下の通り。オフショア・海洋事業は売上高が前年同期比 0.8%増の 9.39 億 SGD、純利益が▲3,952 万 SGD と前年同期の 1,104 万 SGD から赤字転落。事業活動の縮小や関連会社からの投資利益の減少が響いたほか、海外事業で税費用が増加した。前年同期に計上した Keppel Verolme の売却益の反動も出た。不動産事業は、売上高が同 2.1%減の 7.90 億 SGD、純利益が同 3.1 倍の 6.02 億 SGD。開発プロジェクトの一括売却が寄与したほか、不動産の再評価益や中国やシンガポールでの住宅販売も利益を押し上げた。インフラストラクチャー事業は、売上高が同 22.5%増の 12.22 億 SGD、純利益が同 16.3%増の 6,633 万 SGD。Keppel DC REIT の私募に伴う利益が寄与したほか、環境インフラやインフラサービスなどが伸びた。投資事業は、売上高が同 19.5%減の 8,823 万 SGD、純利益が▲4,587 万 SGD と前年同期の 1.63 億 SGD から赤字転落。関連会社株式の評価損失が響いたほか、前年同期に計上した Sino-Singapore Tianjin Eco-City への土地の売却益の反動も出た。

How do we view this?

オフショア・海洋事業では、ガス、フローティング型インフラ、海上再生エネルギーなど新しい領域に取り組んでいく方針。インフラストラクチャー事業では、2020 年に東マリアナ諸島の淡水プラント、2024 年に香港の廃棄物処理施設が完成予定であり、長期的にインフラサービスが伸びる見通し。資産運用では、Keppel DC REIT Management の運用資産残高を 2017/12 末の 290 億 SGD から 2022/12 期までに 500 億 SGD に拡大する目標を掲げている。2018/12 通期の市場予想は、売上高が前年比 8.5%増の 64.70 億 SGD、当期利益が同 4.7 倍の 10.06 億 SGD。同社は 9/27、シンガポール・プレスと共同で携帯通信会社 M1 の株式の過半数の取得を目指すとは発表。買収が実現すれば、デジタルプラットフォームやコネクティブ・テクノロジーなどの分野でシナジーが期待される。

配当予想 (SGD) **0.28** (予想はBloomberg)
 終値 (SGD) **7.03** 2018/10/9

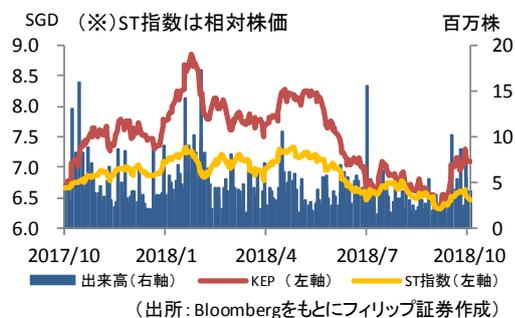
会社概要

1968年に英国の造船会社、スワン・ハンター社によって設立。20カ国以上で事業を展開するマルチビジネスカンパニーで、エネルギー、インフラストラクチャー、環境浄化、高機能住宅・オフィスなどに関するソリューションを提供している。オフショア・海洋事業、不動産事業、インフラストラクチャー事業、投資事業の4つの事業セグメントのもと、事業を管理している。

グループ企業には、海上石油掘削設備の設計・建設・修理、船舶の修理・改修、特殊造船などを行うケッペル・オフショア&マリン、アジア地域を中心に住宅開発や都市設計、統合的なタウン・シップ、商業用不動産開発などを行うケッペル・ランド、エネルギーインフラの運営や関連するソリューションを提供するケッペル・インフラチャー、ワンストップの統合ロジスティクスソリューションの提供や高可用性データセンター施設の開発、管理を行うケッペル・テレコミュニケーション&トランスポートーション(ケッペル・T&T)、アセットマネジメントを行うケッペル・キャピタルなどの企業がある。

企業データ(2018/10/10)

ベータ値	1.28
時価総額(百万SGD)	12,632
企業価値=EV(百万SGD)	17,833
3か月平均売買代金(百万SGD)	30.8



主要株主(2018/10)

1. テマセク・ホールディングス	20.53
2. ブラックロック	4.94
3. Vanguard Group Inc	2.13

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾
 togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707
 庵原 浩樹
 +81 3 3666 6980
 hiroki.ihara@phillip.co.jp

業績推移

※参考レート 1SGD=81.68円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
売上高 (百万SGD)	10,291	6,764	5,961	6,470	7,693
当期利益 (百万SGD)	1,524	783	216	1,006	1,062
EPS (SGD)	0.84	0.43	0.12	0.53	0.58
PER (倍)	8.37	16.35	58.58	13.26	12.12
BPS (SGD)	6.13	6.42	6.29	6.55	6.88
PBR (倍)	1.15	1.10	1.12	1.07	1.02
配当 (SGD)	0.34	0.20	0.22	0.28	0.27
配当利回り (%)	4.84	2.84	3.13	3.98	3.84

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。